

(六七三一一)

乍恐以書附御訴奉申上候事

江州坂田郡布施村

一、出家者人

浄土真宗 了源

右之僧、九月廿九日暮方ニ及当村仕候所、甚持病再発仕候而、一切歩行等不相成候ニ付、当村報恩寺へ留置、看病人ヲ附薬用等無紛所、村役人共日々見舞候而、別而念ヲ入取扱申候得共、養生不相叶、今十日五ツ時致死去候ニ付、早速御訴奉申上候、偏御仁恵之程奉願上候、仍如件

伊師町村

庄屋

文化六年巳十月

太郎衛門

くゞ頭

左五左衛門

御郡奉行所様上

同

善兵衛

同

弥兵衛

(六七三一二)

死骸改書

江州坂田郡布施村

浄土真宗

一、病死旅僧者人

円立寺弟子

但惣身無疵

了源

年五十位

着類

- 一、古破レ黒麻衣沓ツ
- 一、同白単物沓ツ
- 一、同破千草襦袢一ツ
- 一、同破木綿細帶

所持之品

- 一、往來証文沓枚
- 一、珠数沓連(数珠)
- 一、経文沓卷
- 一、古破風呂敷洗晒シ満色不分沓ツ
- 一、打鳴し沓ツ
- 一、小はさみ
- 一、沓挺
- 一、錢貳拾文
- 但葶指へ通し

メ七品

右旅僧病死二付、御訴申上候処早速御出役、我々共御案内仕、死骸并着類等御改申受候処、前書之通相違無御座候、以上

伊師町村

庄屋

太郎衛門

与頭

左五左衛門

同

善兵衛

同

弥兵衛

石神御郡方

改人 菊池五介 印

文化六年

巳十月十一日

(六七三—三)

\*往來一札之事

一、出家者人

法名

了源

右之僧、拙寺弟子紛無御座候、此度依任願望、諸国祖跡并廿四寺為拜礼罷出申候、依之国々御関所無相違御通シ可被下候、若又急病頓死等仕候ハ、其所之如御沙法御取置可被下候、此方迄御届不及申候、為後証往來一札如件

寛政十二年八月

江州坂田郡布施村

浄土真宗

円立寺 印

諸国御関所

御役人衆中

宿々在々

年寄中

(六七四)

扱下伊師町村ニ而旅僧体之もの、致病死候旨訴出候付、支配指出為相糺候処、去月廿九日夕病氣ニ而歩行不相成難義之由庄屋方へ申出候付、右村報恩寺道心寮へ指置、医師相掛薬用為仕候得とも養生不相叶、去ル十日致病死候趣ニ而、何等之疑心も相聞不申候、且往來証文別紙之通所持仕候ニ付、仮埋申付、仍而村訴并死骸改書指添此段申上候、以上

十月

加藤孫三郎

(六七三—三)

\*往來一札 おうらいいっさつ。往來書付、往來手形とも。庶民が旅行の際に携行した、旅行許可証を兼ねた身分証明書。主に村役人や菩提寺が発行し、関所の通行時や宿改めの際に提示した。

(六七五)

十月十五日出府二付持參御用

- 一、寺社材木願二付故障無之旨、別留之通八通之申出尅通
- 一、田渡村玄減祖父餅献上御免之段、前留之通尅通
- 一、水木・折笠御陣屋役所持二相成候旨、御達二付、別留之通尅通
- 一、伊師町村二而行懸り道心致病死候付、前留之通申出尅通
- 一、額田村御城舟仮橋出来候二付、已来 通御之節ハ御舟出し拵不申、仮橋 通御ニ可相成哉之旨、別留之通尅通×五通、御奉行衆へ指出候事

一、円曉院様御法事相済候付、給物為知申出尅通、御用人衆へ指出候事

一、大森村帳外兵吉追放申渡書壹枚、御目付方へ指出候様受払へ相廻候事

一、江戸御普請奉行中へ須和間村栄介日延之儀、申遣候事

寅十二月

一、小目村郷医玄民御慰勞之義、伺出置候分

卯五月

一、介川村石灰焼喜兵衛冥加納御減之義、伺出置候分

辰八月

一、伊師町村二而雁為御取二付木錢等之儀、伺出置候分

巳三月

一、扱下駄場之儀二付、修法之義伺出置候分

同五月

一、水木・折笠両村相傷候付、御救之義伺出置候分

同九月

一、赤須村困窮二付、御救之義伺出置候事

(六七五)

\*須和間村 すわま村(那珂郡)。石神組に属する。現那珂郡東海村須和間。新川の左岸にあり、東は村松村。

右、御奉行衆へ口上二而御催促致候事

同九月

一、油繩子村稗御蔵御普請二付、釘入札ニ可致候旨、御用人衆へ右同断

一、額田村仮橋出来候付、此度ハ上シ出シ計拵下御借之分ハ、仮橋通行致候様御奉行衆へ口上二而申

出候事

一、水木・川尻両村兼而獵師他所出指留置候所、御免可被下哉之旨、口上二而御奉行衆へ伺出候事

一、支配へ之御貸具足相納度旨、右同断

一、介川村次郎作、貝灰焼候所、茅場町<sup>\*</sup>蛸灰会所より兩人罷越焼置候分八俵、当人へ預書付取罷歸候

旨申出候所、往元喜兵衛より被頼焼候間、則喜兵衛相願江戸へ指越、内済為取扱候段口上二而、右

同断

(六七六)

以書付致啓達候、文公様御墓所御普請御用、伽羅石・真沢石運送代御領中惣わり之处、右之分ハ別

高よりも指出候筈、先達而相極り候由、仍而其筋へも申出候付、今程御断相廻候半与奉存候間、鏝壺

貫八百七拾四文御序之節、御廻被下候様致度奉存候、此段可得御意如斯御座候、以上

十月

島村孫衛門様

加藤孫三郎

(六七七)

以書付致啓達候、扱下須和間村栄介与申もの御役所荒子相勤居候处、親大病二付対面之御暇往来之外

日数十日相済罷下候处湿瘡再発いたし歩行相成兼候二付、右日限より日数十日日延願申出候間、宜御

取扱被下候様致度此段得御意候、以上

十月十九日

加藤孫三郎

(六七五)

\*茅場町 かやば町(江戸)。江戸

本所茅場町一(三丁目(現墨田区江東橋三丁目・五丁目)。本所茅場町

一(三丁目の三町はもと八丁堀にあり、町内一同茅・葦を商ったことか

ら南茅場町と称した。しかし江戸の町家の茅屋根葺が禁じられ、牡蠣殻

葺や塗屋造りへ移行すると、炭薪材木等の商売に転じた。

\*蛸灰会所 かきばいかいしよ。「蛸

灰」は牡蠣の貝殻を焼いて作った石灰。漆喰や肥料として用いられた。蛸灰会所は、石灰を商う株仲間

の事務所や取引所として機能した。(七一七―二)石灰会所を参照。

小柳津小八郎様

(六七八)

小目村理部衛門倅弥市、去十一月中石名坂村利八与申者所へ聳ニ参り候所、当九月中不縁ニ相成候由之所、此度疑心之筋有之、入獄相成候間、右村方御札之上、相違も無之候ハ、獄扶持諸入目、牢屋敷へ相納候様御達ニ致たく存候、尤否之儀早速御札之上御報ニ被仰聞候様致度、此段及御懸合候、以上

十月十七日

御町方

石神御郡方

尚々、右之者、女物着類并幟ノ六品、妻之品之内致持参候由之品、弥其通り相違も無之哉、是又御札被仰聞候様致度存候、以上

(六七九)

十月廿日仕出御用

- 一、郷中御成之節御借立場之義ニ付、廻状忝通、常わへ相廻候事
- 一、拝借御延御差略之義御達廻状忝通、見習中へ廻候事
- 一、異国御先手方水木・折笠詰御止ニ相成候旨御達書拔、紅葉組へ相廻候事
- 一、助川村出火ニ付、為御知三通、別留之通御奉行衆・御用人衆・御目付方へ指出候事
- 一、磯崎石運送入札望人無之旨、浜田組へ申遣候事

同日帰り御用

- 一、大久保村より出候水晶、右村ニ所持致候者も有之候ハ、大ふりニ而式ツ三ツ指出候様、御用人衆より御達之事

一、白羽村人別長兵衛等へ御大赦之義、別紙写之通御達御座候間、相廻申候

從弟藤藏へ申渡ス

一、白羽村人別

長兵衛

右之者、先年不束之儀有之、御城下式里四方相構、居村追放申付候所、此度 恭岳院様十七回御忌御法事二付、右御構御免被遊候条、其旨可申渡者也

十一月十八日

又、從弟伊衛門へ申渡

一、大島村出帳外

吉十

右之者、先年不届之儀有之、四郡相構穴倉領之内御定之場所へ追放申付候所、此度 恭岳院様十七回御忌御法事二付、右御構御免被遊候条、其旨可申渡もの也

但、御城下徘徊御屋敷出入ハ今以御構候事

(六八〇)

高原村

馬主

一、白鹿毛 当才 儀助

同

一、黒鹿毛 同 善次

同

一、青毛<sup>\*</sup> 同

勝次郎

右、来春御馬乗御指出為御見被遊候付、御沙汰有之迄売払不申指置候様御達之事

(六八一—二)

扱下西連寺村十人組栄次郎与申者所へ、去ル廿一日盗人忍入、前書之品々被盜取候由訴申出候間、皆様へも御申合いたし、質屋等寄々為相探候段、御奉行衆へも申出候間、御扱下大山守・御山横目等へも御達被下度、此段得御意候条、乍御世話御順覽可被下候、以上

八月廿七日

小原忠次郎

九郡宛

(六八一—二)

覚

一、木綿青茶紋付袷女物沓ツ 紋下り藤

一、木綿黒紋付袷女物沓ツ 紋下り藤

一、木綿藍縞袷女物沓ツ 一、木綿すみ縞女単物沓ツ

一、木綿藍返シ単物沓ツ 一、木綿花色引解沓ツ

一、木綿すりかき裏沓枚 一、木綿裏継之女物式ツ

一、木綿襦袢女物沓ツ 一、黒鈍<sup>\*②</sup>子女帯沓筋

一、木綿帯の真女物沓ツ 一、木綿花色袷沓ツ 紋下り藤

一、木綿柿絞単物沓ツ 一、木綿藍小納戸紋付袷沓ツ

一、同花色紋模様袷一ツ身男物沓ツ

一、中綿沓ツ 一、木綿花色袖なし沓ツ

一、木綿藍返し単物男物沓ツ

(六八〇)

\*青毛 あおげ。馬や獣の毛色。つやのある黒色で青みを帯びて見えるためにいう。

(六八一—二)

\*西連寺村 さいれんじ村(那珂郡)。常葉組に属する。現水戸市柳河町。水戸城下の北に位置し、那珂川の左岸流域の平坦地の村。南から西にかけては中河内村。

(六八一—二)

\*黒鈍子 黒緞子のこと。(四〇八一—) 黒緞子を参照。

ノ拾九品

右、当村栄次郎、八月廿一日被盜取候物数、前書之通御座候、以上

西連寺村

庄屋

伊衛門

巳八月

組頭

三人

(六八二)

以書付致啓達候、去ル廿四日額田村通御先キ船渡へ村役人出張居候節、烏乱者見咎之旨、右御用ニ而相詰居候調役方へ申出候間、直ニ致吟味候処、仙台石ノ巻出又蔵与申者ニ而、当四ヶ年已前御扱下塩\*子村くらミ新田弥十聲ニ罷成、金三郎与改名いたし罷在候所、当二月中右之者方罷出所々相廻リ、宍戸在吉沼村善兵衛与申者方へ罷越手間日雇ヲ取居リ、去ル廿三日出立之節、水風呂釜ツ盗取致持参候旨、委細ハ穿さく口書之通申述候ニ付、太田村へ入獄申付候所、塩子村ヲも盗等にても致罷出候儀ニ可有之哉、一ト通り御糺被下候様致度口書相廻候、此段得御意候、以上

十月

加藤孫三郎

石川儀兵衛様

尚々、御用相済次第、口書ハ御返し可被下候、以上

(六八三)

十月廿六日仕出御用

- 一、西連寺村栄次被盜品廻状尅通、常わへ廻候事
- 一、松枝納候義催促之廻状、大里へ廻候事

(六八二)

\*塩子村 しおこ村(茨城郡)。増井組に属する。現東茨城郡城里町塩子。花香月山・高崎山などの山々に囲まれた山村で。藤井川に沿って日光街道が小勝と青梅(現栃木県芳賀郡茂木町)を結び、街道沿いの宿場とされていた。

- 一、切支丹等申出候義ニ付廻状、常わへ相廻候事
- 一、常福寺指出金之義ニ付寺社役中へ、別留之通及文通候事
- 一、仙台石の巻出又蔵与申者一件、前留之通口書指添、石川儀兵衛方へ及懸合候事

(六八四)

從弟兵五郎へ申渡ス

河原子村

百姓源太郎倅

- 一、

源六

右之もの、先年不届之儀有之、四郡相構、宍倉領之内御定之場所へ追放申付候処、此度 俊祥院様御一周忌御法事ニ付、右御構御免被遊候条、其旨可申渡もの也  
但、御城下徘徊御屋敷出入ハ、今以御構之事

河原子村

百姓所左衛門娘

- 一、

なみ

右之もの、先年不届之儀有之、髮ヲ剃縁付奉公相構、親江預ケ申付候処、此度 俊祥院様御一周忌御法事ニ付、右御構御免被遊候条、其旨可申渡もの也

(六八五―一)

以書付得御意候、国役金納手形書替相濟別紙写之通り御廻申候、且惣郡納總都合にて別紙之通不足總ニ相成申候間、役所指図相納申候、御覽御順達留りより月番役所へ御返可被成候、以上

十月七日

藤田次郎左衛門

九郡宛

(六八五―二)

覚

一、金六百五拾五兩鏹六百八拾三文

是ハ、御国役 公儀御上納、恩田新八郎殿受取手形之面

一、金六百五拾三兩貳分式朱鏹九貫八百八拾七文

是ハ、御国役御郡方より取立納相納候分

指入金壹兩壹分式朱

納不足

鏹九貫貳百四文

納過

鏹九貫六百貳拾四文 兩二七貫文直

指引ノ四百貳拾文 不足

右之通ニ御座候、以上

十月

(六八六―一)

覚

御領地高三拾五万石之内

一、高三拾貳万七千五百五拾石六斗四升壹合

五百九拾貳ヶ村

外高貳万貳千四拾九石三斗五升九合

寺社領并前々より謂有之、無役高除之

此国役金六百五拾五兩永百壹文

○此銀六匁六分五厘四毛

村高百石二付、永貳百文宛兩替

常州之内  
野州

但金壹兩二付、銀六拾五匁七分替

当巳四月五日御金藏相場

但、後藤  
常是 包

右、此度朝鮮人对州迄来聘二付、村高百石二付役高金壹兩宛可取立処、去辰より来ル申迄五ヶ年二わり合可相納旨被御渡候付、去辰年 御領地村々之分書面之通請取申候、以上

文化六年巳四月廿四日

恩田新八郎 印

小宮山次郎衛門殿

石川義兵衛殿

岡野庄五郎殿

小原忠次郎殿

増子幸八郎殿

入江忠八郎殿

白石又衛門殿

皆川弥六殿

加藤孫三郎殿

藤田次郎左衛門殿

別紙之通

(六八六一二)

覚

一、常是包銀六匁六分五厘四毛

此鏝六百八拾三文 但、壹匁二付百三文替

右ハ、就御用両替、上納仕代銀御下ケ奉請取候、以上

文化六年巳

海保六兵衛 印

四月

御金方

御役所

(六八七一)

別紙之通、御勝手向御取縮之儀ニ而、今日御奉行衆より御達御座候間、則御廻申候間御覽御順達可被成候、以上

十月六日

藤田次郎左衛門

九郡宛

(六八七―二)

御勝手向御取縮之儀、別紙之通御心得、御同役中江も御達可被有之候、以上

十月六日

野中三五郎

藤田次郎左衛門様

諸役所向江

御勝手向御取縮之儀ニ付候而ハ、追々相達候通ニ付、何れも無油断立入取扱候義ハ勿論ニ候へとも、御在国中之事故御用向御間合候而已ニ泥不申、縦御前御用之品、又ハ被仰付候事なり共心付候儀ハ、其俣不打過、美細之義ニ而も、尚さら勘弁難決品ハ伺出候様ニ可被致候事

(六八八)

乍恐以書附御訴奉申上候事

越前国坂井郡

上小森村\*

惣衛門

年五十四、五

右之もの、信州善光寺参詣之心掛にて罷出候趣ニ御座候処、村方地内往還筋ニ行掛り、病氣附歩行不相叶、千石坪之もの四五日介抱為仕候へとも、次第ニ様子不宜相見へ申候由訴出申候間、早速人足召

(六八八)

\*上小森村 かみこもり村(越前国坂井郡)。現福井県坂井市春江町上小森。辻村・大牧村の南にあり、東は西長田村。貞享三年、福井藩領より幕府領になった。

\*善光寺 長野市長野元善町にある寺院。山号定額山。近世は天台宗(善光寺大勧進)と浄土宗(善光寺大本願)の二宗の僧侶がこれに奉仕し、本尊は一光三尊阿弥陀如来となっている。

連庄屋最寄へ引取、医師二相掛ケ、葉養等相加へ介抱仕候へとも、療治も不相届、今廿四日明方死去仕候間、御訴奉申上候、早速取仕廻申度御下知偏奉願上候、依如件

文化六年巳十月廿四日

河原子村

庄屋

茂衛門 印

与頭

四人

石神御陣屋

御郡御奉行所様

(六八九)

死骸改書

越前国坂井郡

上小森村

惣衛門

とし五十四、五

一、死人

但惣身無疵

着類

一、千花引解キ忝ッ

一、古木綿嶋わた入羽織忝ッ

一、古嶋木綿帯

所持之品

一、鏝六百文

一、波下<sup>(皮)</sup>ケ煙草入忝ッ但きせる忝

一、古白足袋忝足

一、古脚半

一、古小倉帯忝筋

一、古も、引忝ッ

一、米式合程

一、算書老冊

一、古單もの巻ッ

一、小風呂敷巻ッ

右之者、村内地内ニ而病死仕候付死骸御改ニ付、我々共御案内仕無相違御改申請候、以上

文化六年巳十月

河原子村

庄屋

茂衛門 印

与頭

次八郎 印

同

政七 印

同

次郎兵衛 印

同

勘左衛門 印

石神御郡方

改人

安島政衛門 印

(六九〇)

宗門請状并通り手形之事

越前坂井郡上小森村

惣衛門

妻そよ

同惣衛門

一、高田宗仙福寺門徒

市五郎

孫

右ハ、拙寺門徒ニ無紛御座候、若御禁忌<sup>\*</sup>之宗門之由、於訴人有之ハ相誘可申候、今度信州善光寺へ参詣仕度国元罷出候処、若兩人共何国にても急病急死仕候共、国元在所へ御返ニ不及候、処之御作法之通御取扱ニ被成可被下候、若申事無御座候、為其願寺請状如件

文化三寅年十月

越前福井山

国々処々

御役人中

仙福寺

(六九一一)

別紙之通、御前御披露相濟候旨申来候間御廻申候、御順達可被成候、以上

十月廿三日

藤田次郎左衛門

九郡宛

(六九一二)

以書付致啓達候、当已御取附目錄、今廿三日御前御披露無滞相濟申候、此段御心得ニ申進候条御同役様中へも御通達被成候様ニ奉存候、以上

十月廿三日

児玉蘭衛門

藤田次郎左衛門様

(六九二)

以廻状得御意候、支配帶劔<sup>\*</sup>之儀、委細当春中御相談之上、申出置候処、御故障之儀有之相濟不申候旨、昨十二日、御奉行衆より忠次郎殿へ御達御座候、右之段得御意度如此御座候、以上

(六九〇)

<sup>\*</sup>禁忌之宗門 キリシタン。江戸幕府は慶長十七年にキリシタン禁制を直轄領に布告し、十八年には全国に禁教令を發布した。正徳元年には禁令と訴人の制札を諸大名に布告した。

(六九二)

<sup>\*</sup>帶劔 たいけん。劔を身に帯びること。帶刀。

十月十三日

藤田次郎左衛門

九郡宛

(六九三)

支配軍司庄衛門儀病身二付、永之御暇願申出候付、願之通相濟候間、御心得二得御意候条、御世話御順覽可被下候、以上

十月十五日

小原忠次郎

九郡宛

御見習衆共

(六九四)

扱下河原子村二而乞食体之もの病死いたし候旨訴出候付、支配指出為相糺候所、去月廿八日、右村地内往還二仆居候旨申出有之付、食事業用等為仕候へ共、日増二様子不宜候間、庄屋最寄へ引取看病人附置、時々米焚噌等相送り療医相掛ケ薬用為仕候へ共、養生不相叶、去ル廿四日病死いたし候趣、尤往来証文、別紙之通所持仕候へ共、疑敷相見此もの所持可仕証文ニも無之様ニ而、生国等も睨与不仕候へとも、村方取扱之儀ハ、別而疑心之筋も無之相聞申候間、先仮埋申付、村訴并死骸改書指添、此段申上候、以上

十月

加藤孫三郎

(六九五)

小目村理部衛門倅弥市、去暮中石名坂村利八与申もの所へ聳ニ参り、当九月中不縁ニ相成候所、御疑心之筋有之、此度入獄被仰付候付、村方糺之上、相違無之候者、獄扶持諸入用、牢屋敷へ相納候様、尚又右之もの女着類并櫛等六品、妻之品之内持参いたし候よし之処、是又相糺可得御意旨旁致承知候、

(六九五)

\*櫛 とばり。室内や寝所、帳台、外部との境などに垂らして区切りや隔てとしたり、光を遮ったりするための布。

依村方相糺候処、往元弥市儀ハ理部衛門倅ニハ無之、築波在之ものニ而、一兩年已前小目村へ罷越候付、理部衛門世話いたし置親分ニ相成、石名坂へ聲ニ遣候処、暮方難渋ニ付、相對之上離縁いたし候所、其節妻之衣類左之通都合七品、是又得心之上、弥市へ遣候旨申出候、尤人別も無之候へ共、牢扶持代等之儀ハ指出候様相達候事ニ御座候、以上

十一月朔日

石神御郡方

御町方

覚

一、袖袷ツ 一、木綿袷ツ 一、単もの式ツ

一、帯袷筋 一、腰帶袷筋 一、襦半袷ツ

一、蚊屋袷ツ 一、メ七品

右之通り

(六九六)

十一月朔日仕出御用

一、河原子村飢人久左衛門病死ニ付為知袷通、吟味方へ別留之通指出候事

一、田中々村藤三郎請状印形いたし指出候付、御目付方へ指出候事

一、御取付目録御前御披露相濟候廻状袷通

一、郡司庄衛門永之御暇ニ相成候旨廻状袷通

一、帯釵之義御故障有之、不相濟旨廻状袷通

五行、常わへ相廻候事

一、鑑三百文、上使之節支配召連候所、右日雇錢請取手形証拋書付共、受払方へ相廻候事

一、河原子村にて病死人有之付、前留之通、為御知袷通、御奉行衆へ指出候事

- 一、御褒美御達書返上式枚、御奉行衆へ指出候事
- 一、小目村理部衛門倅弥市一件、前留之通御町方へ及挨拶候事
- 一、横堀村・内宿村之者酒休株後台村等へ讓度旨、別留之通、忠次郎方へ及懸合候事

同日帰り御用

- 一、<sup>\*</sup>瓦焼立御用松枝不足ニ付納繼之義、別紙之通、御用人衆より御達之由相廻候事

但、別紙わり物留ニ有

- 一、外宿村等稗御蔵御修覆之義、伺之通取扱候処、積書御下ケ御用人衆より御達候事
  - 一、香取介十郎、竹木御断相廻候間、相廻候事
- 右頭書ニ而申来候事

(六九七)

以廻状致啓達候、然は別紙之通、昨日被仰付候間、此段為御知申候、於我々も恐入候義ニ御座候、御覽乍御世話御順達可被下候、以上

十月

藤田次郎左衛門

九郡宛

小原忠次郎

小原忠次郎

藤田次郎左衛門へ

一、

御郡方請払手代

大津長三郎

右之者、此度御先手同心へ、過ニ御入人申付並之切符為取候条、其旨可被相達事

(六九六)  
<sup>\*</sup>瓦焼立 文化六年四月に水戸藩では彰考館の屋根瓦をすべて葺き替えるため瓦焼職人を雇い、瓦屋の瓦焼釜で焼きたてたその仕事をいう。

(六九八)

以廻状得御意候、然者来ル十五日、登 城之義、俊祥院様御法事中ニ付、当日之服ニ而登 城御祝儀者不申上筈ニ候間、其旨相心得、同役へも申合候様可致旨、於 御城、今日御目付庄勘衛門より忠次郎殿へ達有之候間、此段得御意候条、御覽御順達可被成候、以上

十月朔日

藤田次郎左衛門

九郡宛見習中共

(六九九―二)

扱下上青山村庄屋多市与申者伯母、別屋敷ニ隠居仕、少々之質貸いたし罷在候由之処、去ル廿日夜盗人忍入、長持之錠ヲ明ケ、前書品々ヲ盗取候付、所々相尋候へ共、手懸り無之旨、別紙之通村方より訴出候付、其旨御奉行衆へも申出候間、御山横目等へ御達被下候様致度奉存候、以上

十月廿五日

石川儀兵衛

九郡宛

(六九九―二)

覚

一、木綿大平小紋染壹反

一、木綿男綿入壹ツ

但、花色紋式ツ巴裏千草

一、紬女单物壹ツ

一、形付小紋古麻羽織壹ツ

但、色千草紋抱茗荷

一、木綿千草敷物壹反

一、無地こはく女帯壹筋

一、かや壹釣

一、さひ鉄小紋形付木綿壹反

一、太織口綿女物壹ツ

一、縮緬口綿女物壹ツ

(六九九―二)

\*上青山村 かみあおやま村(茨城郡)。増井組に属する。現東茨城郡城里町上青山。村内の中央部を石塚村から勝見沢村を経て笠間へ向かう街道が通る。人家は南北に散在し、南は下青山村。

但、築波摺裏千草

横立茶縞裏木綿千草

一、横立藤色縞単物沓ッ

一、紺万筋立縞沓反

一、茶格子縞袴男物沓ッ

一、茶子持弁慶縞沓反

一、木綿無地花色沓反

一、木綿（浅黄）棧（浅黄）キ小紋形付沓反

一、金三分鏢沓貫百文

メ拾八品

右、私共隠居へ、去ル廿日夕盗人忍入、前書之品々被盜取候付、所々承候へ共、不相知候間、此段御訴申上候、以上

上青山村

巳十月廿二日

庄屋 多市

(100)

十一月五日仕出御用

一、四季打獵師獲物数員数書出、別留之通り御奉行衆へ指出候事

一、北筋御成之節、諸肴為御取ニ相成候、被下鏢請取手形御断、別留之通相直、御奉行へ右同断

一、折笠村庄屋立代ニ付合判式枚、別留之通御目付方へ右同断

一、大津長三郎御先手同心へ御入人被仰付候廻状沓通

一、去月十五日当日之服にて罷出候様御達之廻状沓通

式行紅葉へ廻候様遣候事

一、御城舟具納之戻り廻状、浜田へ返候事

一、御制服之儀、別高へも今程御達ニ相成候や之旨、一卜通り御奉行衆伺候様、小原忠次郎等へ申遣候事

(701)

覚

小目村内石名坂

利八聳

弥市

一、金巻分式朱

一、木綿古蒲団巻ツ

右之者、入獄被仰付候付、獄扶持代諸入用も有之候付、先達而も御達有之候所、今以村役人罷越不申候由、富田太郎より申出有之ハ、来ル八日迄ニ、右之品相納候様御達ニ致度候事

巳十一月

御町方

石神御郡方

(7011)

以書付致啓達候、然者追々及御懸合候、当三月中於友部村博突出来候節、拘り之者共近ク吟味相済申候所、御同様入獄申付置候者共も有之儀ニ御座候間、早々裁許取調申度御さ候条、右思召を以島名村忠三郎口書、早速御廻被成候様致度、此段得御意候、以上

十一月

加藤孫三郎

島村孫衛門様

(7011)

以書付致啓達候、扱下大島村帳外吉十与申者、此度 恭岳院様御法事ニ付帰參相済候旨、御達御座候付、村方相糺候所、右吉十与申者村方ニ無之、名前ハ違候得共、長太郎与申者より外ニ心当リ無之由、尤右長太郎儀者、其後於御町牢斬罪被仰付候由ニ相聞候旨、村方より申出候所、右吉十儀者去ル寛政

(7011)

\*友部村 ともべ村(多賀郡)。石神組に属する。現日立市友部。梁津川が北境を東流、多賀山地東麓丘陵に位置し、東は伊師本郷村。

六寅十月廿三日、於御役所御召捕、宍倉領へ御追放ニ相成候由、先達而御書拔御廻被下候所、其砌人元御糺之儀、役所へ御掛合被成候事与ハ存候へ共、其節之留不相見候間、右長太郎儀ニ可有之や、御留御糺被下候上、弥其者ニ無相違相見候ハ、其後於御町斬罪被仰付候や、是又乍御六ヶ敷御町方御問合之上、否御報可被仰下候奉頼候、以上

十一月十日

小原忠次郎様

加藤孫三郎

(七〇四)

以書付致啓達候、大久保村ニ有之水晶御用之由、御用人衆より御達ニ付、則為掘取指上候間、御指出可被下候奉頼候、以上

十一月十日

松平權藏様

山口直次郎様

加藤孫三郎

(七〇五)

覚

廿分一改御役家壺棟 但、長五間

横式間半

是者、家上不残葺替之分

右、御入目

一、萱百九拾六束 但、五尺ノ繩

代金壺兩三分 但、金壺分ニ付萱式拾八束直

一、小竹拾式本

一、さら竹九拾本

一、太繩貳拾五房 但、五拾尋千組

一、萱手拾貳工

此御扶持米壹斗貳升 但、壹工ニ付米壹升ツ、

一、人足拾四人

此御扶持米七升 但、壹人ニ付米五合宛

右、河原子村廿分一改御役家屋上御修覆願出候付、支配指出見分爲仕候所、是迄も所々雨漏居候上、当秋嵐之節一円ニ吹立候ニ付、甚以及大破、不残葺替不申候而ハ御修覆相届兼、依而御入目大凶ニ積申出候間、早速御達御座候様致度、此段申出候、以上

十一月

加藤孫三郎

(七〇六)

以書付致啓達候、扱下上高場村藤次衛門、江戸黒鍬罷登居、御供ニ而罷下候所、休息御暇相願村方へ罷歸居、御扱下田彦村罷通候節、右村久三郎与申者方へ立寄、口論之上被致打擲候旨訴出候付、此度糺相懸候所、藤次平儀不束故事ヲ起被<sup>④</sup>腦候趣、拘り之者共委細ハ口書之通り申述候付、口書相廻懸御目候間、外二思召も無御座候ハ、久三郎等刑御目論ニ而御廻被成候様致度存候、且又藤次衛門致紛失候由之金子、与之衛門等之もの取扱を以拾取之儀ニも無之、久三郎ニ爲指出、藤次衛門ニ爲請取候由ニ而、筋無之金子請取候様ニ相聞候間、裁許之節申付爲相返候而可然哉、此段旁得御意候条否御報ニ被仰聞候様致度御座候、以上

十一月十日

加藤孫三郎

小原忠次郎様

(七〇七)

石神外宿村

百姓金六後家

きん

(七〇七)

此もの、往元極窮之上、持分之土地悪所ニ而、入作仕候而も浮無<sup>\*</sup>之次第ニ老衰仕、自分之働相成兼、何連ニも給続不相成候趣相聞申候

\*浮 うき。金銀などに余りが出る  
こと。余裕ができる。浮徳ともいう。

石神白方村

水吞与四衛門後家

らく

此者、往元他所ものニ而、右村方へ縁付居男子御座候得とも、行衛不相知次第ニ老衰仕働難相成、今日之經營相成兼候趣相聞申候

右之もの共、可便方無之及飢候由願出候付、為相糺候之処、何レも極窮ニ而由緒連ハ更ニ無之、寔ニ及飢候段、村願之通無相違相聞申候間、何卒兩人共、来月朔日朝より存生之内、御救御扶持稗被下置候様仕度此段奉存候、以上

十一月

加藤孫三郎

(七〇八)

乍恐以書付奉願上候事

石神外宿村

百姓金六後家

きん

高畠壺石式斗

とし七十五

右之もの、極困窮ニ御座候上、遠縁之由緒<sup>(共)</sup>ともも病死等ニ而、当時更ニ縁者無之、所持之田畠地味不  
宜場所ニ而入作等ニ仕候而も浮無之、自分ニ而ハ耕候義も相成かね旁難決仕、是迄も多クハ隣家之世

話ニ而取続居候処、老年ニ而次第二今日之経営ニも甚難洪仕候間、何卒重キ御儀ニハ御座候得とも、右後家存生之内、飢人御ふち稗被下置候様奉願上候、前書願之通、偏御慈悲之御了簡を以、御濟口被仰付被下置候ハ、当人ハ勿論村役人一同難有仕合ニ奉存候、仍如件

右村

庄屋

勘兵衛

文化六年巳十月

与頭

利衛門

同 新介

同 安衛門

同 紋三郎

御郡御奉行所様

(七〇九)

乍恐以書付奉願上候事

飢女老入

石神白方村

水吞与四衛門後家

らく

年六十七

右之もの、先年越後国より罷越候而、先庄や八郎処ニ而下女ニ召抱、永年召仕候得とも、実貞ニ相勤候ニ付、人別御組入奉願御濟口ニ相成、与四衛門与申者へめ合セ申候、左候得ハ、伊三郎与申男子出生仕、当年三十才ニ罷成申候、右伊三郎義ハ舟乗渡世仕、六七ヶ年已前迄ハ、一ヶ年ニ一兩度位ツ、も帰村いたし、母へも夫食等之手当仕取続居候処、其後何ノ便も無御座候付、処々手筋を以為相尋候

得とも、一向二行衛不相知、右らく義も追々老年ニ罷成働も相成兼、飢渴におよひ候処、他国もの之義与四衛門方之義も由緒自他村ニ更無御座候付、先庄屋義ハ先年召仕候縁も御座候間、役介為仕さし置候へ共、数年之義ニ而相届兼候間、村役人并坪内之持寄等を以、今日ヲ為凌指置候処、此先キ何レニも無取続手段更ニ無御座候間、何卒御仁慮之御了簡を以存生之内、飢人御ふち稗被下置候様奉願上候、願之通御濟口ニ相成候ハ、当人ハ不及申上ニ村役人之我々共迄難有仕合奉存候、仍如件

文化六年巳十月

右村

庄屋

平左衛門

与頭

五郎左衛門

同

喜三郎

同

左吉

同

常三郎

御郡御奉行所様

(710)

以書付致啓達候、当七月中於河原子村浜中烏乱者召捕入獄申付置遂糺明候へハ、越後国横堀村出幸吉与申者ニ有之、岩城へ罷越居候金上村追放、伝之允与申者子分ニ相成居候付、被召連御扱下稻木村追放、藤次平大橋村ニ致借宅罷在候所へ参落着向山松山・藤田村竹山・久慈村松山於三ヶ所博奕致候旨、委細ハ口書之通申述候付、御扱下藤田村惣吉呼出候へハ他行之由別紙之通申出候付、何レニも引返早速申出候様ニと先達而相達相待候へ共今以申出無之、右之者計ニ而裁許相延置牢扶持等も費ニ相成候間、堤村彦十・大橋村居住藤次平兩人ヲハ惣吉吟味相濟候迄取計延置候ハ、幸吉ヲハ早速追払候間も可然哉と存候間思召も無之候ハ、刑目論ハ直ニ御返可被下候、且又役所より申付候而ハ廻リ遠ニも御座候間、惣吉ヲハ早速引返候様御役所より被仰付候而御呼出ニ而御糺被下候様ニハ罷成申候間敷

や、右二付御用ニ御座候得ハ、口書巻卷ハ御留被指置候而も役所手支ハ無御座候、旁及御相談候条、否御報ニ被仰聞候様致たく此段得御意候、以上

十一月

加藤孫三郎

入江忠八郎様

右、配符にて九日遣候事

(七一一)

十一月十日仕出御用

- 一、田彦村久三郎・上高場村藤次衛門口論一件二付、前留之通口書巻卷小原忠次郎方へ及懸合候事
- 一、大島村出帳外吉十与申者村方ニ無之趣申出候付、前留之通忠次郎方へ右同断
- 一、御前御用ニ付、大久保村より指出候水晶五ツ権藏方相頼、前留之通御用人衆へ指出候事
- 一、外宿・白方之者、飢人御扶持願ニ付前留之通排是添御奉行衆へ指出候事
- 一、河原子村廿分一改役御役家、家上繕御入目積いたし、前留之通御用人衆へ申出候事
- 一、調達金之義ニ付、御褒美被下候付、別留之通手形三枚差遣候事
- 一、村松・白方村郷鳥見雇七郎平村人足相除候付、先年之見合を以人足丈ケ鏢ニ直し、常葉組へ相廻候事
- 一、外宿村等より指出候目貫入書状、黒鍬方鈴木専衛門方へ相頼為指定候事

(七一二)

御書付致拜見候、御扱下友部村権現山ニおゐて、当三月中相催候博奕一件拘候者共、御吟味も相済候所、其内二者入獄御申付被指置候分も有之候ニ付、早ク裁許御取調被成度由、右二付島名村忠三郎口書早速相廻可申旨被仰聞致承知候、則口書巻卷相廻し申候間宜御取扱可被下候、右御答迄早々如斯御座候、以上

(七一一)

\*目貫 めぬき。刀の部位名。目釘ともいう。刀や槍の中子の穴に柄の表から挿し通して刀身の抜けるのを防ぐための釘。

十一月十一日

島村孫衛門

加藤孫三郎様

尚々、高萩村常三郎義も先日得御意候通り、追々為相尋候へ共、只今二見当り不申候由申出候、仍而此段得御意候、以上

(七一三)

御書付致拜見候 文公様御墓所御普請御用伽羅石・真沢石運送代御領中惣割之処、右之分ハ別高よりも指出候筈ニ先達而相極候由、仍而其筋へも御申出被成候付、今程御断も相廻り候半与被思召、鑑壹貫八百七拾四文序ニ御役所迄相廻し可申旨被仰聞致承知候、右之義ハ御奉行衆より御達も御座候へ共、相分り兼候義も有之、又候御筋へ申出候次第も御座候へハ、追々得御意候様可致候、右御答迄早々如斯御座候、以上

十一月十一日

島村孫衛門

加藤孫三郎様

(七一四)

御書付致拜見候、越後出幸吉御召捕之上御札被成候処、扱下稲木村追放藤次兵衛大橋村ニ借宅罷在候処へ落着、藤田村竹山等其外ニ而博奕いたし候旨申述、右拘り藤田村惣吉・上川合村庄三郎・吉三郎等行衛不相知、尤惣吉義ハ他行之由ニハ候得とも、御吟味相済候まで取計御延置候而ハ牢扶持代等費も有之ニ付、越後出幸吉義ハ追払其外堤村彦十大橋村住居藤次平義ハ御延置、惣吉札相分り候節、御取計可被成候間、御懸合之趣いさい致承知候、何様惣吉迎も一ト通之他行ニも有之間敷候間、追払等早速御取計可然存候、其外堤村彦十・大橋村住居藤次平迎も藤田村惣吉相分り候迄ニハ此上程も不知義ニ候得ハ、是以御取計被成候而も可然哉、猶御了簡之上宜御取計可被成候、惣吉義ハ於役所引請相糺、刑目論等掛御目取計可申候条、御廻之口書一卷役所へ留置、此度御目論刑当御申渡書返進いたし、

(七一四)

\*上川合村 かみかわい村（久慈郡）。大里組に属する。現常陸太田市上河合町。山田川が久慈川に合流する地点の北東の地域。自然堤防状に城跡がある。

\*藤田村 ふじた村（久慈郡）。大里組に属する。現常陸太田市藤田町。山田川の北に位置し、東は天神林村。

右御答如此ニ御座候、以上

十一月十一日

入江忠八郎

加藤孫三郎様

二伯<sup>④</sup>、本文惣吉行衛之義、村懸リ之支配ヲも相尋候処、何レへ罷越候哉、当時行方不相知よしニ御座候、以上

(七一五一一)

御制服之内綿太織・綿呉呂等着用之義ニ付、先日御寄合ニ而御相談申、御町奉行中へ又衛門殿より御懸合置被成候処、別紙写之通次郎左衛門殿へ申来候由ニ而御申合御座候、然ル処右者何レ御町与一手ニ無之候而者不宜候間、最初及御相談候通り見濟候方可然哉御存意も無御座候ハ、右之趣ヲ以御奉行衆へも申出候様可致候間、否御付札ニ而御順達留りより御用番へ御返可被成候、以上

十一月十二日

小原忠次郎

岡野庄五郎様 入江忠八郎様

加藤孫三郎様 藤田次郎左衛門様

存寄無之旨、申遣ス

尚々、廻状式通ニ得御意候、以上

(七一五一二)

以 書付致啓達候、此度被仰出候御町在御制服之内、綿太織綿呉呂等者絹袖与者相違之品ニ者候得とも、此上奢侈弛之端ニも可相成候間、是また一切ニ御制禁可被成との御申合之よしニも、いさゝ先日御同役白石又衛門殿より御懸合之趣致承知則申合候処、右等之品者寛政年中綿服被仰出候節も為着候見合ヲ以、此度も指免可然与申合、則右之趣先達而及御懸合其段筋へも申出候、尤高下之差別ニ拘り候事ニ者無之候得とも、商人之義者少シク表ヲ飾候義も無之候得者、家業向指支も有之、既ニ家居よ

り都而之義農家とハ渡世筋甚相違之事ニ候得者、綿縮綿呉呂等ハ着用指免候而も可然与申合候事ニ御座候、此段旁及御挨拶候、以上

十一月七日

猪飼伝衛門

藤田次郎左衛門様

(七一六)

覚

伺之上

河原子村

百姓源太郎倅

源六

一、

申渡書略ス

同

同村

百姓所左衛門娘

なミ

一、

右同断

御達之上

白羽村人別

長兵衛

右同断

右、此度 俊祥院様・恭岳院様御法事ニ付、御達之上并伺之上取計、帰参等申付候者共、前書之通御座候、仍而此段為御知申出候、以上

加藤孫三郎

十一月

御目附様中

(七一七一)

扱下介川村百姓次郎作石灰焼出之儀、行事茅場町弥兵衛等罷越被相糺候義ニ付、先日申出候趣も有之  
所、弥兵衛等別紙之通、及 公訴之趣ニ付、公訴ハ先ツ控置候様、其筋へ御頼ニ相成候所、先方及  
公訴候趣ニ候得者、弥兵衛等へ内済相整候様、尚更御達可被有之候、仍而別紙相廻候条、否早々御  
申出可被有之候、以上

十一月十二日

興津所左衛門

加藤孫三郎様

追啓、別紙之内ニ天下野村之者も籠候得とも取用に不及候、以上

(七一七二)

南茅場町

石灰会所預り人\*

柳蔵

芝金杉同朋町

家主

石灰屋

弥兵衛

行事ニ而、左之者共を取調候者

水戸様御領知

常州天下野村

庄屋 孫衛門

同州介川村

百姓 次郎作

(七一七二)

\*石灰会所 せっかいかいしよ。石  
灰はいしばいともいい、石灰石や貝  
殻を焼いてつくる。武蔵国八王子が  
石灰の産地として有名。これを取り  
扱った会所をいう。

石灰竈元之儀者、御取極有之候儀ニ候処、右孫衛門・次郎作義、右之外にて石灰焼出候趣ニ付、前書行事弥兵衛義罷越相調候所、孫衛門儀ハ、御領主様御聞濟にて致来候段申之、取合不申候旨、次郎作義者、神田花房町代地新七店喜兵衛与申漆喰屋ニ被頼、聊焼出候趣を以、喜兵衛一同誤入相詫候得共、次郎作意人も難相濟、猶石灰仲間之者共、此節致相談出訴可仕趣ニ御座候

但、石灰之儀、前々より御勝手方御勘定御奉行様へ御掛リニ有之、是迄右体之儀も右御掛江申上候義ニ付、此度も柳生主膳正様へ罷出候趣ニ御座候、尤石灰上納金之義ハ御代官大貫次郎衛門様

へ相納候旨ニ御座候

右之通、承合申上候、以上

巳十一月

十左衛門

(七一七三)

御書付拜見仕候、扱下介川村百姓次郎作石灰焼出、江戸茅場町弥兵衛等罷越、相糺候義ニ付、先日一卜通り申上置候所、弥兵衛等及公訴候趣ニ付、先ハ控置候様其筋へ御頼御座候間、此上内濟相整候様、尚更相達可申旨、別紙御下ケ御達之趣承知仕候、右取扱先達而池田や喜兵衛罷登居候へ共、未何レ共不申来候趣相聞申候間、猶又此上相達否相分り次第、追而可申上候、以上

十一月十六日

加藤孫三郎

興津所左衛門様

追啓、御下之別紙壹通并御印判返上仕候、以上

(七一八)

十一月十五日仕出御用

一、御法事ニ付帰参御免相濟候、為御知書付壹枚、前留之通、御目付方へ指出候事

一、田尻村市郎兵衛・下高場村もん致病死候ニ付、飢人扶持引上之為知壹枚、別留之通吟味方へ指出

(七一七二)

\*柳生主膳正 柳生久通(ひさみち)。幕府勘定奉行。幕府旗本。文政十一年八月二十四日死去。

(七一七三)

\*公訴 公けに訴え出ること。ここでは幕府へ訴えること。

(七一八)

\*帰参御免 きさんごめん。追放人が村にもどることを許されること。

候事

- 一、雜穀元直段之廻状、常わへ相廻候事
- 一、油繩子村稗御蔵御普請二付、萱釘入札拾式枚開札致候様、吟味方へ指出候事
- 一、子育稗手形壹枚、御勘定所押切請候様遣候事
- 一、外宿村理衛門、御褒美金請取手形御役金方江遣請取候様遣候事
- 一、仙台石ノ巻出又蔵刑伺、左留之通、御奉行衆へ指出候事
- 一、介川村貝灰焼出候儀二付、前留之通、御奉行衆へ及御答候事
- 一、香取介十郎竹木拝領相濟候付、別留之通、村方へ之証文請払方迄遣候事
- 一、瓦焼立御用松枝納之義二付、別留之通御用人衆へ申出候事
- 一、俊祥院様御法事之節、郷村宛物破紛失之分仕出壹冊并請取手形共、吟味方へ指出候様遣候事
- 一、小木津村等舟拝借金百両手形年号書直し、又々御役金方へ遣候事

(七一九)

去月廿四日、額田村へ烏乱ケ間敷者壹人、居風呂釜ツ蓑二包背負来候旨申出候間、遂吟味候へハ、石ノ巻出之者二而、御領中於所々二手間日雇を取罷在、塩子村倉見新田へ入掣二相成候義も有之、其外沢村へも罷越近頃ハ宍戸在吉沼村ニ罷越居罷立候節、居風呂釜ツ盜持来候へ共、於御領内悪事仕候義者無之旨、委細ハ口書之通申述候付、石川儀兵衛方へも申合、倉見新田ヲも為相糺、其外沢村ヲも相糺候所、両所共ニ盜等致候義者不相聞候間、別紙目錄之通申渡、盜来候釜ヲハ取上、御領中追扨候而可然哉奉伺候間、早速御下知可被下候、且又釜之儀ハ御町方へ引渡申度奉存候間、右役所へ御断置被下候様仕度、此段旁申上候、以上

十一月

加藤孫三郎

(七二〇)

(七一九)

\*居風呂釜 すえぶろがま。釜の下  
部に竈(かまど)を据えつけた風呂  
釜。

廿分一役

新兵衛

右、春半一統拝借納殘金式朱本式百文不納候事

右御役金方より納候様、懸合有之事

(七二一一)

\*公儀御城米駄賃之儀ニ付、別紙之通申来候間、御扱下々へ宜御達置被成候様ニと存候、返書之儀者、役所月番ニ付、前振を以相認指遣候事ニ御座候、仍而来状相廻掛御目候条、御順覽可被成候、以上

御用番

小原忠次郎

十一月十五日

小宮山次郎衛門様

岡野庄五郎様

入江忠八郎様

加藤孫三郎様

(七二一二)

一筆致啓上候、各様弥御堅固被成御勤珍重奉存候、然者拙者御代官所奥州村々当已御年貢御城米、当月廿日頃より一日百駄宛程附出シ申候間、宿々附送り差支無之様、兼而被仰付置可被下候、追而付送り駄数日限等先触為指出可申候、左様御承知可被下候、右可得御意如斯御座候、恐惶謹言

十一月九日

\*寺西重次郎

名乗判

太田長兵衛様

長尾左大夫様

(七二一一)

\*公儀御城米駄賃 幕府領の江戸向け年貢運搬に掛かる輸送費。

(七二一二)

\*寺西重次郎 寺西封元(たかもと)。奥州瑞代官所代官。寺西弘篤の子。公金貸付、勤儉節約、産業奨励、荒地起返し、土木工事を行い農村人口増加をはかり農村強化に努めた。文政十年二月十八日、七九歳で死去。

(七三一一)

公儀御城米駄送之儀二付、別紙之通申来候間則相廻候条、宜御取計可被成候、且錢相場付者来正月御寄合之節、御持參被成候様ニと存候、早々御順覽可被成候、以上

十一月十五日

石川庄吉  
郡司左兵衛

武田伴衛門様 坂場三郎衛門様  
小田倉宇八様 江幡定衛門様

(七三一二)

一筆致啓上候、各様弥御堅固被成御勤珍重奉存候、然者重次郎御代官所、奥州白川郡村々当已御年貢御城米、当月廿日頃より一日百駄宛程村々付出シ申付候、追而御米員数日限等先触差出候間、御領分宿々無滞御米麓略不致様、兼而被仰付置可被下候、右之段可得御意如斯御座候、恐惶謹言

十一月九日

坪内泰次郎  
名乗判

小泉次介様 郡司左兵衛様

追而、徳田<sup>\*</sup>・小菅<sup>\*</sup>・町屋<sup>\*</sup>・太田<sup>\*</sup>・額田<sup>\*</sup>・枝川<sup>\*</sup>・海老沢<sup>\*</sup>・下吉影<sup>\*</sup>、都合八ヶ村駄賃錢、相払候二付、当已十一月十二月分錢相場書御取例之通、各様奥印被成、来正月中旬迄ニ、塙陣屋へ御差越可被下候、以上

(七三一一)

御書付致拜見候、御扱下大島村帳外吉十与申者、此度 恭岳院様御法事二付、帰參相濟候所、右吉十与申者村方ニ無之、尤名前違ニも可有之哉、何レ於村方ハ心当りも無之由にて、委細被仰聞候趣致承知候、則別紙留書拔并御町方問合之面御廻申候条、右にて宜御取扱可被成候、右御報如斯御座候、以

(七三一二)

\*錢相場 ぜにそうば。金銀と錢との交換比率。江戸幕府の公定相場とには金一両〓銀六〇匁〓錢四貫文が有名だが、実際には日々変動した。

(七三一二)

\*徳田(村) とくだ村(多賀郡)。小菅組に属する。現常陸太田市徳田町。里川の上流に位置し、東は根小屋新田。水戸領内棚倉街道の最北の宿場。

\*町屋(村) まちや村(久慈郡)。小菅組に属する。現常陸太田市町屋町。里川の左岸、溪谷にあり、北は西河内下村。棚倉街道の駅所にあたる。

\*下吉影(村) しもよしかげ村(茨城郡)。紅葉組に属する。現小美玉市下吉影。巴川の右岸に位置し、西は上合村。慶長七年松岡藩領、元和元年から水戸藩領。

上

十一月十五日

小原忠次郎

加藤孫三郎様

(七三三二)

以書付致啓達候、御扱下大島村吉十与申者致盜候由二而申出候間、相糺候所、右之者廿式才二相成候節居村立去候所、村方二居候節ハ忠吉与申候由之処、当時吉十与致改名候由、父者喜衛門与申五拾余二相成候旨申述候間、村方御糺否被仰聞候様致度御座候、以上

五月廿六日

皆川弥六

下河辺津大夫様

右村方相糺候所帳外二有之旨、一ト通り之返書ニ付略ス

(七二四)

差上申書付之事

一、当村喜衛門倅兵十事忠吉与申者人別元等御糺ニ御座候所、喜衛門二者孫にて、兵十与申者之倅ニ御座候、幼名長太郎与申候而、幼少より不行跡ものニ御座候間、由緒願之上、当拾ヶ年程已前、帳外ニ被仰付候所、其後所々ニ而、悪ル沙汰等有之間、兵十義も由緒へ相談之上、六七ヶ年已前帳外ニ罷成、親子共ニ村方人別ハ除ニ相成候者ニ御座候、以上

寛政六年寅五月

大島村庄屋

幸衛門 印

組頭

祐吉 印

御郡御奉行所様

(七二五)

石神御郡下大島村帳外幼名長太郎事吉十与申者、寛政六寅年宍倉へ御追放被成候所、右長太郎御町牢二而、斬罪被仰付候儀ハ無之哉相糺、否可及御挨拶旨御掛合之趣致承知、則相糺候所、右寅年已来大島村出之者斬罪被仰付候義者、勿論右二似寄候名前之者も更ニ相見不申候、仍而此段及御挨拶候事

十一月十四日

御町方

常葉御郡方

(七二六)

以書付致啓上候、石岡村<sup>\*</sup>百姓民十与申者之馬、去ル六日夕荷鞍共ニ被盜取候付、所々相尋候得共、今以見当り不申候由、仍而ハ乍御世話御扱下へも御触出被下候様致度奉頼候、右之段可得御意、早々如斯御座候、以上

十一月十五日

島村孫衛門

加藤孫三郎様

尚々、先達而、殿様被為 入候節、中戸川新田御昼之砌、横川村常三郎与申者焼米ヲ俵ニ入、通御先江指置候を為御持被遊候よし、然ル所右俵御役所へ御下ケニ相成候趣、御奉行衆よりも御達有之候処、今程御役所へ相廻候義ニも可有之候哉、乍序御問合申否御報被仰聞可被下候、以上

(七二七)

乍恐以書付御訴奉申上候事

毛色鹿毛

石岡村

男馬壹疋 但 年八才

百姓 民十

勢<sup>(音)</sup>三尺四寸

右之者所持之馬、昨六日夕、

(七二六)

\*石岡村 いしおか村(多賀郡)。松岡領に属する。現北茨城市中郷町石岡。松井村境を東流してきた大北川流域に平地が開け、西部は山が連なる。

荷鞍共二被盜取候間、何卒御慈非之御了簡を以、御吟味被下置候様奉願上候、依而御訴書如件

文化六年巳十一月

右村庄屋

藏之允 印

与頭

四人 印

(七二八)

以書付致啓達候、御扱下本米崎村彦三郎与申者当七月中疑心之筋有之由二而、大里村番人召捕指出候付、其砌及御懸合候所、前々も致小盜候由にて御糺被成候所、一体乱心同様之者二付、指籠へ入被指置候所、再応相破逃出、当時御尋被仰付置候者之由、委細被仰聞候得共、扱又右同村久兵衛門与申者太田村庄屋所二致奉公居候所、右彦三郎并越後出権兵衛等三人申合、庄屋所持之米四呎盜取候由、先達而糺候節申述候所、久兵衛門義者、其砌自殺可致与小鎌二而咽を突立候由二付、部垂村へ入獄申付置、此程快氣之由二付、再穿鑿相懸候所、委細別卷口書之通二御座候間、彦三郎儀ハ外御糺之次第も有之候ハ、御穿鑿之上宜敷御取計可被成候、尤扱下拘之者共ハ追而御申合、於役所刑目論可為致候条、御扱下之者刑御目論之節、否可被仰聞候、尤件之通手負人等も有之儀にて、永々牢舎申付置候事二御座候間、同敷ハ近ク相分り候様致度御座候間、尚御了簡之上否可被仰聞候、口書卷相廻、旁及御懸合候、以上

十一月十四日

入江忠八郎

加藤孫三郎様

尚々、彦三郎義者、太田村へ入獄申付置候事二御さ候

(七二九)

覚

伺之上

大島村出帳外

一、

吉十

右之者先年不届之儀有之、四郡相構、完倉領之内御定之場所へ追放申付候所、此度 恭岳院様十七回御忌御法事二付、右御構御免被遊候条其旨可申渡者也

但、御城下徘徊、屋敷出入ハ今以御構之事

右、此度 恭岳院様御法事二付伺之上取計、帰参等申付候者前書之通御座候、仍而此段為御知申出候、以上

十一月

加藤孫三郎

御目付様中

(7110)

以書付致啓達候、先達而委細得御意候、藤田村惣吉儀今程病氣致快気候所、出先より致欠落候旨別紙之通申出候間、此上相尋見当り候ハ、御役所へ訴申出候様相達候間、此後之儀者宜御取扱可被下候、且右之次第二候へ者、外拘り之者ハ不残刑当可申付存候、仍而村方申出書指添此段得御意候、以上

十一月廿日

加藤孫三郎

入江忠八郎様

右、村方申出書ハ、一卜通之義ニ付略ス

(7111)

乍恐以書付御訴申上候事

南部都浜

冲乗舟頭\*

(7111)  
\*冲乗舟頭 おきのりせんどう。船主(居船頭・大船頭)に雇われた船頭。冲船頭ともいう。船主自ら乗船することを直乗船頭という。

破舟壹艘

此積荷、数の子百四拾七表<sup>(後)</sup>

内百弍拾八俵 水舟より取揚候分

残拾九俵、流失分

右、当御領大津村丸屋佐十荷物別紙送り状之通、仙台荒浜より当月三日積請走登候処、昨十三日暮六ツ時当浜中郷磯江乗揚候付、村役人之我々とも人足大勢召連介舟数艘指出磯より引下シ候処、舟底相傷沈舟二相成候へ共、前書之通荷物取揚置早速御訴申上候、以上

文化六年巳十一月十四日

御郡御奉行所様

嘉吉  
水主  
四人

会瀬村

庄屋 伝左衛門  
与頭 四人

(七三一一二)

覚

破船壹艘

南部領都浜

直乗船頭

嘉吉

水主

四人

此積荷、数の子百四拾七俵

右、別高大津村佐十荷物、去ル三日仙台荒浜ニ而積請、同十三日大津浜致入津候所、浪立荷役相成兼

(七三一一二)

\*大津浜 おおつ村(多賀郡)の海岸。松岡領に属する。現北茨城市大津町。東と南は海岸線近くまで丘陵性台地が迫り、北東部の海岸は切り立った海食台地が続く。太平洋に面して位置する。

候付荷主へ掛合、直ニ湊村迄積送り候様任頼、右浜致出帆候処、同日暮六ツ時頃会瀬浜ニ而及破舟候旨訴出候付、支配指出為相糺候所、其砌風烈敷高浪故、間之内へ乗入可申与存候所、舟入見失イ中郷磯江乗掛、水船ニ相成候ニ付、即刻村役人共罷出、上荷物解下介船指出、水主共無難ニ介揚、翌日残荷物船具等不残引付候趣ニ而、何等之疑心も相聞不申候間、前振之通取計浦証文写共ニ式通、指出入御覽候間、御用相濟候ハ、追而御下ケ可被下候、以上

十一月

加藤孫三郎

(七三一一三)

相渡申浦証文之事

破船壹艘 敷返り、不残忽破ニ成

御別高大津村

丸屋左十

南部領都浜

直乗船頭

嘉吉

但、水主共ニ五人乗舟、海具類紛失無之不残無難

此積荷物

別紙送り状之面

一、数の子百四拾七俵

わけ

拾九俵 流失

六拾三俵

内三俵壹分五厘

是者、破舟之御介舟乗付、上荷物引揚候分

御法之通、廿分一取揚人へ為請取候分

残五拾九俵八分五厘

六拾五俵

内六俵五分

是者、水舟より取揚候付御法之通、拾分一取揚人へ為請取候分

残五拾八俵五分

残百拾八俵三分五厘

是者、宿立合を以荷主へ相渡申候

右ハ、御別高大津浜丸屋左十、商荷仙台荒浜より中湊<sup>\*</sup>作平次方迄相送候、荷物別紙送り状之面、右浜問屋平兵衛方より当月三日荷請いたし、日和見合罷在候由之処、同九日順風ニ而出帆仕候へ共、別而西風烈敷罷成候付、岩城領中港<sup>つら</sup>浜へ掛留居、同十三日烈風ニハ有之候へ共順風ニ付、右浜出帆仕、同日八ツ時大津浜入津仕候所、折節浪立荷役相成兼候付、荷主へ掛合候所、直様中湊作平次方迄積送候様任頼ニ、同日八ツ時右浜出帆仕走登候所、次第暴風烈敷高浪ニ罷成、中湊入津危ク相成候付、当浜間ノ内へ掛留、風相凌可申与津口へ乗入候所、高浪故舟入見失イ、中郷磯へ乗揚、暫時ニ水舟ニ相成候由申出有之間、即刻村役人共罷出、介船数艘指出元舟へ為乗付、先上荷為舁下、水主共介揚、元舟引付可申与下知仕候内、次第ニ風烈敷浪立、尚又夜ニ入小舟等出船危相見候間、渚へ番人付置、翌十四日未明人足大勢召連残表水舟之内より上ケ、繩張封印致置石神御役所様へ御訴申上候所、早速御出役之上、破舟之場所并諸道具・残荷物等御改之上船頭・水主共被成御吟味、尚又流失之品近浜々へ流寄候歟、又ハ漁舟之者沖合ニ而見付候者も有之歟、早速可申出旨御触被成候所、右見当り候者無之段申出も有之、尚又搔舟等被仰付海中御尋可被成哉之旨舟頭へ被仰含候所、右流失之分ハ沈荷ニ相成候ニハ無之、最早高浪ニ被打破、散々ニ沖合へ被引出候義与相見、其上時化ニ而出船も不相成候事ニ御

(七三一一三)

\*中湊(那珂湊) 湊(みなと)村(那珂郡)のこと。浜田組に属する。現ひたちなか市で旧那珂湊市街付近。東は太平洋。奥州・北海道と江戸を結ぶ海上輸送の中継港として東北諸藩産米を江戸へ出す東廻海運の寄港地ともなった。

座候間、搔舟之儀ハ御止被下様相願候付、任其義出舟不被仰付候、仍前書之通舟宿立合を以相渡申候、右破船一件ニ付、於当浜不埒之筋も決而無御座候、為後日浦証文、仍如件

会瀬村与頭

三人 印

舟庄屋

須田忠次兵衛 印

庄屋

柴田伝左衛門 印

文化六年巳十一月

御別高

大津村

丸屋佐十殿

南部領都浜

直乗船頭

嘉吉殿

前書之通、為相渡候、以上

菊地五助 印

裏証文請取ハ、右同様之事ニ付略ス

(七三三)

以書付致啓達候、御扱下中根村之者共ニ、下高場村左吉脇指被奪候由出訴有之付、吟味為致候所、左吉儀、松ヲ伐、礫等ヲ打候上、脇指ヲ拔伐懸候付、右之者脇指ヲハ中根村儀兵衛取上、上高場村甚三郎脇指ヲハ左吉連故、中根村次兵衛取上候趣ニ申述、左吉・甚三郎兩人ハ、何ニ而も致不束候義者無之候得共、強勢ニ被奪取候旨ヲ申張、委細ハ口書之通、水懸論ニ而双方申口共ニ難取用候間、此上ハ

又候強繩等申付相糺候外無之候へ共、手懸りも無之儀ヲ押而為陷候も如何敷、殊二者十月朔日ハ、毎年祝町ニ角力出来、双方共ニ見物ニ罷越、帰リ之節之趣候間、見物之場所ニ而致口論等候儀より起候類ニも可有御座候哉与存候間、其所より吟味為致候而も宜様二者有之候得共、神事等之故を以御見濟被指置候儀ニも可有之哉ニ候所、表へ頭候而ハ無故御突当等出来申間敷儀ニも無之付、右之境ハ上高場村庄屋へ内々申付、風聞等為相糺申候処、角力見物之帰りより起候義とハ相聞不申趣、別紙之通申出候付、一卷廻懸御目候条、於御役所も働有之者へ内糺被仰付、手懸リニ罷成候次第も有之候ハ、被仰聞候様致度御座候、若又内糺被仰付候而も手懸リニ相成候程之義有之間敷候ハ、口書之面を以、御扱下之者共刑御目論御廻被成候而も可然哉、御相談旁得御意候条、否御報ニ可被仰聞候、以上

十一月十九日

加藤孫三郎

藤田次郎左衛門様

(七三三三)

十一月廿日仕出御用

- 一、下高場村左吉脇指被奪取候一件、前留之通口書指添、藤田次郎左衛門方へ及文通候事
- 一、藤田村惣吉致欠落候一件、前留之通入江忠八郎方へ為及文通候事
- 一、大島村出吉十帰参相濟候、為知前留之通、御目付方へ指出候事
- 一、会瀬村ニ而大津村左十船致破船候付、浦証文等前留之通、御奉行衆へ指出候事

同日帰御用

- 一、油繩子村稗御蔵御普請方釘・萱入札、開札相濟相廻候事
- 一、外宿村きん・白方村らくへ飢人御扶持申出候通、相濟候旨御達之由、受払方より申来候事

(七三四)

以書付致啓達候、然者今日御城へ罷出候処、御奉行衆より別紙之通御達ニ御座候間、早々御申合御達被成、当人〱為御指登ニ相成候ハ、其段早速御申出被成候様御達ニ御座候間、宜敷御取扱可被成候、御覽後御順達可被成候、以上

十一月廿二日

松平権藏

岡野庄五郎様

加藤孫三郎様

天下野村 源左衛門

助川村 次郎作

右御定之外、貝灰焼立ニ付江戸会所之者先達而罷下り、相改之上、此度先キ方より、及 公訴候趣ニ付、其筋御頼之上、別紙之通 公訴為控置候様御頼ニ相成候間、右兩人等へ罷登内濟整候様申付、否早々申出候様去ル九日兩扱へ相達候所、未為指登候事与相見、先キ方ニ而ハ最早連々 公訴控かたく候ニ付、来ル廿三四日方及 公訴候趣、其筋御頼之者より申出候段申来候所、如何之意味にて、兩扱共今以何等之申出も無之哉、捨置候而ハ、御頼の方へ対シ候而も不相成、其而已ならず先キ方より及 公訴候上ハ呼出ニ相成村難義ハ勿論、勝公事ニも不相成次第二候間、兩人共早々出立罷登内濟整候様兩扱へ達候事

御文義之内、別紙与申ケ条有之所御下ケハ無之事

(七三五)

以書付致啓達候、河原子村廿分一改役御役家御修覆之儀、申出候通相濟候旨、御用人衆より御達ニ候間、別紙御下ケニ付御廻申候

一、駅場取扱之義、御伺式通指出置候所、右之儀ハ寄人馬之儀ハ、不容易義ニ候間、今一応了簡之上、申出候様申出御下ケ御達候事

十一月廿三日

受払方

石神組

(七三六)

高原村

与頭

忠次衛門

一、

右之者父母共先年致病死、兄太十儀者博奕へ拘り、去ル寅年追放被 仰付候付、老年之祖父父母致養育罷在候所、右之者生質貞実ニ而農業致出精、随而組下ヲも懇ニ取扱候上、祖父儀ハ中症相煩、祖母也も極老ニ御座候間、寒氣之節ハ凌兼候迎日向宜場所へ致家作指置、菓湯等相立為入暖成節ハ背負出、屋敷廻リ田畑為致見物、又ハ草花等植置為慰、乍困窮も衣服等へも心ヲ付、食物之儀も好ニ任肴等ヲも折々相求為給、他出之節ハ勿論農事ニ出入共隠居へ相断候様ニいたし、御用先等ニ而隙取帰遅罷成候砌ハ別而急候而老人共之様子承旦夕無怠心ヲ尽、女房へも兼々申付、万事疎略無之様為取扱誠ニ余郷ニも稀成者之由相聞申候間、勸善之御儀を以可然御慰勞被下候様仕度 於私奉願候、以上

三月

加藤孫三郎

(七三七)

覚

寅十二月

一、小目村郷医玄民御慰勞之義、伺出置候分

卯五月

一、介川村石灰焼池田屋喜兵衛、冥加納御減之儀、伺出置候分

辰八月

一、伊師町村ニ而雁為御取ニ付、木錢等之儀、伺出置候分  
巳五月

一、扱下水木・折笠両村御陣屋相立相傷候付、御救之儀、伺出置候分  
同九月

一、赤須村困窮ニ付御救之儀、伺出置候分

同十月

一、田渡村郷医玄減祖父病死ニ付、餅献上御免之旨伺出置候分

同十一月

一、仙台石ノ卷出又蔵、刑当之儀、伺出置候分

右、追々伺申出置未御下知無之分、前書之通ニ御座候、以上

十一月

加藤孫三郎

(七三八)

乍恐以書付奉願上候事

大久保村

繁衛門

年七拾貳

右之者、乱心候気味ニ御座候所、当月初より八拾才ニ相成候女房ニ離縁致し、度々追出シ、何故与相尋申候へ者、姪生ヲ犯シ相手ヲ催置去リ被致候坏与様々成事ヲ申、日々さひ脇指ヲ磨キ帶シ步行候ニ付、近所年寄も異見等も仕候へ共、一円聞請不申候次第ニ御座候、教誡等申含候者ヲハ、却而遺恨ニ存悪心ヲ起、此上打捨置候ハ、如何様之後難等之義も難計奉存候、右ニ付由緒より奉願上候義ニ御座候得共、遠縁者ニ而奉願上候者も無御座候、何とも奉恐入候へ共、指懸リ候義与申、町内之者共代ル〳〵日番仕、難儀至極ニ奉存候、何卒御仁恵之御了簡を以、檻へ入置申度奉存候、村役人より奉願

上候義者重々奉恐入候へ共、御濟口被下置候ハ、村内一統難有仕合奉存候、仍而如件

右村庄屋

介兵衛

文化六年巳十一月

与頭

五人 印

御郡御奉行所様

右、役所了簡之上、直二濟口相達候事

(七三九)

十一月廿五日仕出御用

- 一、御用金之義ニ付御褒美被下候廻状、小菅・鷺子・増井組仕出廻状、都合三通受払へ廻ス
- 一、高原村之者御慰勞伺忝通、前留之通、御奉行衆へ指出候事
- 一、外宿村稗御蔵御普請御入目勘定忝袋、御勘定所へ指出候様并手形御断御用人衆へ指出候様遣候事
- 一、指向定押御馳振之廻状忝通、八田へ廻候様遣候事
- 一、御城米早納之廻状忝通、大里へ廻候様遣候事
- 一、内宿村茂兵衛酒休株\*、後台村太一衛門へ売渡候義、濟口相達候旨、忠次郎方へ別留之通、及文通候事

同日帰御用

- 一、香取助十郎殿竹木証文引替相濟候間、則手形御廻申候
  - 一、田中々村武衛門義麻上下等御免之儀、故障之有無相糺申出候様別紙を以御懸候事
  - 一、石ノ巻出又蔵刑伺御付札之通取計候様御達之由申来候所、御付札無之付、又々問返候事
- 右、受払方より頭書ニ而申来候事

(七三九)

\*酒休株 さげやすみかぶ。酒株は江戸幕府が酒造統制の手段として酒屋の営業権を認めたもの。水戸藩でも酒株を設けたが、酒休株は造酒株を持っていながら営業していない酒屋をさす。

(七四〇)

十一月廿六日出府ニ付持參御用

- 一、田中々村郷士大内勘衛門父子登城致度旨、別留之通、御奉行衆へ指出候事
- 一、定式御催促物、前留之通、御奉行衆へ指出候事

(七四一)

麻上下御免御城大吟味方へ年頭并

田中々村

丸水御荷符御預ケ

武衛門

右、故障有無申出候様、御奉行衆より御達候事

(七四二—一)

扱下菅谷村庄屋勘兵衛与申者所へ盜賊忍入、品々被盜取候旨、別紙之通訴出候付、皆様へも致御申合、寄々為相札可申段其筋へも申出候間、乍御世話御扱下之大御山守・御山横目へ宜御達被下度、此段得御意候条、御順覽可被申候、以上

十一月七日

小原忠次郎

九郡宛

(七四二—二)

乍恐書付を以奉御訴候事

- 一、金式両式分
- 一、紙入男物壱ツ、女物壱ツ
- 一、縮緬ふくさ壱ツ
- 一、こはく帯男物壱筋
- 一、木綿紺縞男綿入壱ツ 但、裏千草
- 一、太織古男綿入壱ツ

一、木綿単半襦袢男物壹ツ

メ数八ツ

右之品々、十月晦日夜八ツ時、私宅へ忍入、前書之品被盜取候所、入御聞ニ候而已奉入御覽候、以上  
文化六年巳十一月

菅谷村庄屋

勘兵衛

御郡御奉行所様

(七四三一一)

以廻状得御意候、一昨廿一日御突合ニ付、御評定所へ御一同罷出居候所、御目付方より直次郎殿江致  
出仕候様申来被致出仕候所、別紙之通達有之二付、則相廻候条、御覽御順達可被成候、以上

十月廿三日

藤田次郎左衛門

九郡宛

(七四三一二)

一、青山下野守殿より林阿弥を以、御城付共へ一紙ニ而御渡候御書付之写

此度、東海道舞坂・新居両宿困窮ニ付、人馬賃銭割増船賃共、左之通可請取旨申渡

巳正月より寅十二月迄、拾ヶ年之内人馬

東海道

賃銭式増割申付置候所、尚又当巳

舞坂宿

十月より来ル戌九月迄、中五ヶ年之間

新居宿

三割増都合五割増

右両宿割増申渡候間、可被得其意候

右之趣、向々へ可被相触候

巳九月

右之通、相触候間可存其趣候

(七四四一一)

以廻状得御意候、扱下天神林村百姓周次郎与申もの、去ル廿七日太田市へ罷出其夜不罷帰行衛不相知旨、別紙之通訴申出候、仍而御扱下々御糺被下、容体書之者見当候ハ、早速為御知可被申候、御覽乍御世話、早々御順達留りより御返し可被申候、以上

十月廿九日

入江忠八郎

九郡宛

(七四四一二)

以書付御訴申上候事

天神林村

間坂坪百姓

周次郎

年式十八

容体書

一、文中より高キ方、但中肉

一、眉毛薄キ方

一、色黒キ方

一、耳鼻眼齒常体

着類

一、黒綿入袴ツ

一、千草無地袴

但紋丸二五三ノ桐裏千草

但、裏浅黄つきく

一、空色単物

一、帯千草木綿

(七四四一一)

\*太田市 おおたいち。常陸北部の在郷町である太田村では二七の市といわれた六斎市が開かれていた。取り扱われた商品は糊・大豆・葉たばこ・楮などであった。

但紋丸二五三ノ桐

一、白木綿下帯

一、黒古裕羽織、裏木綿（加賀）か、染

一、花色股引

一、傘

一、金式分はし鑑 是者、太田穀間屋より所持之分

右、一昨廿七日昼七ツ時太田市へ罷出候所、其夜不罷帰候付、所々相尋候所、今以行衛相知不申、尤平日実貞二而、出走等仕者二も無之様奉存候、若狐等二も被相廻候義も難計候間、何卒御仁恵を以、村々御触流被下候様奉願上候、仍如件

右村庄屋

文化六年巳十月廿九日

市左衛門

与頭

五人

大里御郡御奉行所様

(七四五)

以書付致啓達候、扱下稲木村五郎左衛門召抱横堀村幸十身代返金之義、去年中より度々御懸合置申候得共、如何相分り可申哉、永々之引帳（取）二も御座候間、近ク御取訊否被仰聞候様致度、此段得御意候、以上

十一月廿四日

入江忠八郎

加藤孫三郎様

(七四六)

田中々村

武衛門

右之者麻上下御免、御城大吟味方へ年頭并丸水御荷符御預ニ罷成候而も、故障ハ無之哉、有無可申上候旨、御達御座候所、於役所何等之故障も無御座候、仍而此段申上候、以上

十二月

加藤孫三郎

(七四七)

御書付致拜見候、御扱下稲木村五郎左衛門召抱横堀村幸十身代返金之儀、今程如何相分り候哉之旨、被仰聞致承知候所、右之義者先達而入割相濟、五郎左衛門方よりも願書御下ケ願、御役所へ罷出候筈之由、村方より申出候付、当四月廿五日御廻候願書致返進、其段得御意候間、今程御承知之義与存候所、いまた右村より不申出事与存候間、尚又稲木村御糺被下候様致度存候、且岡田村庄次郎身代金之儀も、今程相濟候旨申出候間、五衛門願書致返進候、定而是も近々御役所へ申出候事与存候、右御報可得御意如斯御座候、以上

三月晦日

加藤孫三郎

入江忠八郎様

(七四八―)

石神扱下本米崎村彦三郎与申もの平日不行跡ニ而、大酒之節ハ母へ之当り不宜、乱心同様之由申出之趣も御座候付、檻江為入置候所、及度々逃去り小盗等致候得共、文公様御新葬御法事之御砌ニ付、伺之上御大赦ヲ以如元檻へ入置候所、其後又々逃去候付、由緒共へ尋申付候得共行衛不相知旨申出、此度外疑心之筋、在々大里村小屋者召捕指出候付、遂吟味候所、当秋中太田村庄や方ニ而、本米崎村久兵衛・越後出権兵衛等三人申合白米四呎盗取、其外於所々かたり或ハ小盗等いたし候旨、委細ハ別冊口書之通ニ御座候、尤彦三郎義者、村内へも折々立帰り候旨申口ニ付、由緒共をも相糺候所、村内へ立入候義ハ更ニ無之由、無相違相聞申口、少々異同者御座候得共、再糺相掛ケ候ニも及申間舖哉与奉存候付、拘り之者共刑目論仕、口書一同入御覽候、且永々入牢ヲも申付置候間、早速御下知御座候

様 仕度此段奉伺候、已上

一、右拘り之内、太田村庄屋被盜取候白米四呎之義者、同村居住越後出小次郎卜申者買取相違無之付、御法之通無代ニ而引上を、引上候分被盜人庄屋方へ相渡候様仕度奉伺候、否早速御下知可被下候、以上

十一月

入江忠八郎

加藤孫三郎

(七四八―二)

御書付致拜見候、扱下本米崎村彦三郎与申もの疑心之節有之、大里村小屋者召捕、御役所へ指出候間御吟味御座候所、於所々ニ小盜致候段、委細口書之通申述候得共、右之外於役所相糺候義も可在之哉之由ニ而、口書御廻シ被仰聞候趣致承知候所、右之者義者外ニ糺之義も無御座候得共、村内へ立歸候義も在之旨、口書ニ相見候間由緒之者とも相糺候所、右等之儀者無之由、無相違様相聞候申口へ少々異同者御座候得共、再糺ニも不及事之様致愚慮候間、則目論懸御目申候、且彦三郎義ハ先年園へ入置候節、伺之上取計候間、此度も伺不指出候而ハ相成間敷哉与草稿相認、懸御目候条、御存意も御座候ハ、何分御消削之上宜御取扱可被下候、仍而口書壹卷指添此段得御意候、以上

十一月

加藤孫三郎

右、十一月廿七日配符ニ而遣ス 入江忠八郎様

(七四九)

以 書付啓上仕候、然ハ御領中孝行・貞節等之もの行状 公儀御書出、惣郡分区々ニ付、私方へ取調候様ニとの儀ニ付取掛リ申候所、右行状被仰渡之面ヲ指略なく無用之文儀ヲ除、又ハてには而已ヲ直候御役所も在之、又ハ大抵ヲ取候のミニ而行状委細ニ不顯、感心も薄く相見候之分も有之、何れ惣郡区々ニ在之候、仍而ハ一手ニ取調申筈ニ御座候間、御扱下分御書出も被仰渡書ハ、無洩御認御廻可被

下候

一、他御扱下分も相見申候、定而右等之分ハ御役所ノ御書抜にて、御廻被成候事と相見申候間、御扱下分計を御認御廻可被下候、所々之分入交リ申候而者、混雜仕指支申候

一、別高之分も相見申候処、御引訳後之分ハ、別高より書出之已前之分ハ、御役所より御書出ニ而宜候事ト奉存候間、右之思召にて御取調御座候様仕度候、尤右別高分之もの持高年付并死亡之訳者、

御掛合之上、右役所より御取不被成候ハ、相成間敷候、且又御引訳已来之分書出相廻候様ニとの義ハ、先達而此方御役所より御達書ともニ相廻申候間、掛ケ合置申候事ニ御座候

一、持高年付等無之分も相見申候間、無洩御糺御書入御廻可被下候

一、年付ハ、定而御褒美被下候節之年齢ト相見申候

一、村々片書分ハ国郡懸御認御廻可被下候

右ハ、別而御急キ御達有之間早速御廻シ可被下候、以上

十一月廿七日

鈴木庄助

加藤孫三郎様

(七五〇一)

覚

鑿壹貫七百貳拾貳文

内鑿三拾六文 万残物払代引

残鑿壹貫六百八拾貳文 今渡リ

右、水木村御陣屋家上并外圍繕御普請御入目鑿請取手形仕出候条、御裏判相済候様致度奉存候、尤此段吟味方へも御断可被下候、以上

十二月

加藤孫三郎

(七五〇二)

扱下水木村御陣屋家上御修覆之儀御断相廻候付、先達而御修覆仕候処、少分之儀与申、尚又御急之義ニ候間、諸品入札ニ不仕所相場ヲ以御普請相極、此度右御勘定指出候間、右之振を以見届も相済候様御勘定所へ御断可被下候、以上

十二月

加藤孫三郎

(七五一)

扱下大久保村組頭重之衛門倅重次郎と申者、去ル廿二日太田・西宮等へ罷越戻り之節、岡田村地内往還ニ而、旅人体之者と及口論、手疵被為負候旨訴申出候付為相糺候所、重次郎馬ニ而罷帰候先ニ立、年頃三十位手振体身形之者、罷越候脇ヲ馬ニ而乗拔候得者当り候とて、彼是悪口等申脇指ヲ抜ミね打ニ致シ行過候付、何レ之ものニ候哉、件之理不尽可聞届と、跡より馬ヲ率罷越候得ハ引帰又々及刃傷、左之腕為負手疵逃去り、いつれもの共生所等不相分旨、拘り之もの共申述候、尤瀬谷村追放人作次郎与申者ニも可有之候哉旨、風税(風)も御座候趣相聞申候、尚又心ヲ付候様申付置候得とも、及刃傷候儀ニ御座候間、此段御心得旁申上候、以上

十一月

加藤孫三郎

(七五二)

十一月晦日出御用

- 一、天神林村周次郎行衛不相知旨、廻状紅葉へ廻ス
- 一、東海道新居宿等割増之廻状、浜田へ返候事
- 一、菅谷村庄屋被盜品廻状、大里へ廻候事
- 一、外宿村さん等飢人御扶持相済候、為知吟味方へ指出候事
- 一、調達金利金請取手形四枚并大吟味方へ之御断書共、別留之通、請取置具候様相廻候事

(七五二)

\*断書 ことわりがき。ある事柄について補足または条件、理由などを書いたもの。

一、田中々村武衛門麻上下御免等之儀、故障無之旨前留之通、御奉行衆へ申出候事

一、大久保村重次郎手疵被為負候旨、為御知前留之通、御奉行衆へ指出候事

一、先達而北浜御成候砌、竹木御賄方より借用之分紛失二付、印形付書付遣候事  
右、受払方へ廻ス

(七五三)

扱下介川村百姓次郎作貝灰焼之儀二付、内濟取扱候様御達二付其砌早速飛脚為指登、今程罷下り候所、何レニも天下野村孫衛門方不相分内ハ挨拶仕兼候趣ニ而、返書至来仕候段申出御座候所、尚又御達御座候付、当人為指登申候間、否相分り次第早速可申上候得共、先ツ此段申上置候、以上

十一月

加藤孫三郎

(七五四)

以書付致啓達候、追々御取扱ニも相成候大久保村亀五郎、御役金方拝借懐合ハ、新次衛門江戸抱屋敷類焼之節、ふしん入用等指支候由にて、新次衛門罷出相願、尤亀五郎義ハ幼少にて一円新次衛門引請取扱候事ニ而、亀五郎ハ名前而已ニ有之ニ付、右最初より之次第具ニ御年寄衆へ申上、新次衛門知行押之義相伺候所、其通取扱候様ニとの御了簡二付、村方初押之儀ハ、御奉行衆より御断可相廻候得共、毎度御取扱ともニも罷成候事故、此段得御意候、尤知行押之段ハ当人江者支配より及断候上相押候事ニ御座候、以上

十一月朔日

酒井市之允

加藤孫三郎様

(七五五一)

以書付致啓達候、扱下河原子村重藏船、沖合より死骸積帰候旨申出候付、為相糺候所、御扱下湊村金

藏漁船水主共難船二逢、致水死候に無相違相聞、疑心之筋も相見不申候間、死骸ハ直二湊村へ為相渡申候、仍而申出書目論懸御目候条、何分御添削之上、御指出可被申候、尤口書卷ハ指出候二も、及申間敷存候間、御覽相濟候ハ、御返可被申候、此段得御意度、如斯御座候、以上

十二月四日

加藤孫三郎

藤田次郎左衛門様

右、森新五郎致持参候事

右、存寄無之付、申出筋へ指出候よし、口書ハ返り候事

(七五五―二)

石神御郡下河原子村重藏与申もの之舟、沖合より死骸四人積入致帰船候旨訴申出候付、孫三郎支配手代指出吟味為仕候所、右重藏舟船頭・水主共二四人乗二而、去月晦日致出船候処、於沖合二難船見付候間、漕付可申と相働候得とも、風波荒相届兼候付、水主式人海中へ入、游着様子見届候へハ、兩人ハ死骸ヲ舟へ結付置、兩人ハ帆繩へ取付相果居候間、右四人之死骸并印付之樽壹ツ、為手懸積入帰船仕候得とも、何レ之ものとカ不相知候付、村役人共より浜々へ飛脚指出相尋候処、湊村金藏漁船四人乗二而、去月廿八日縄舟二罷出候得とも帰船不仕候間、右之船二可有之由二而、舟主并村役人代之もの罷越候付、為見届候得ハ、金藏舟之水主共二相違無之、水死二相違無之候間、死骸ハ受取申度旨願出、外二疑心之筋も相聞不申候付、願之通死骸ハ為相渡申候義二御座候、仍而此段御心得迄二申上候、以上

十二月

加藤孫三郎

藤田次郎左衛門

(七五六―一)

乍恐以書付奉願上候事

一、御金貳拾五両也 但、無利足拾ヶ年賦 火元之外焼失人拾人

壹人ニ付、貳両貳分ツ、

一、御稗五拾石 但、拾ヶ年賦 右同断

壹人ニ付、五石ツ、

右当村百姓藤藏灰屋より昨廿九日出火仕、宿並之百姓拾壹軒類焼仕候、元来極窮之もの共、尚又時節柄取仕抹之折節ニ而、穀物不残焼失、当時より夫食等ニ指支、其上居家普請等之手当も更ニ無御座候間、御仁恵之御了簡を以、前書奉願上候、御金・御稗ともニ無御減少、拾ヶ年賦ニ拝借被仰付被下置候様、偏ニ奉願上申候、仍而如件

文化六年巳十一月

伊師町村

庄屋

太郎衛門

与頭

佐五左衛門 惣印

同 善兵衛

同 弥兵衛

御郡御奉行所様

(七五六―二)

覚

村願高貳拾五両之内

伊師町村焼失人

一、金貳拾両 但、無<sup>利</sup>足、来午より八ヶ年賦 火元除十人

同四十石之内

一、稗三拾石 但、壹軒ニ付稗三石ツ、

来午より六ヶ年賦

右、去ル廿九日夜藤蔵と申者出火、尤引火ニ而拾耄軒焼失仕候処、一同火元へ駆付相防候内、俄ニ乾風烈敷吹散候而暫時ニ焼失仕候故、手端之道具をも一向指出不申候由、尤右村ハ三十ヶ年余以来ハ火災無之、若背婦人共等之類ハ周章仕居、諸品等指出候心懸も無之、馬杯も隣郷より駈付候、もの事出遣候様成義ニ有之、勿論火元ハ十一軒之中カ程ニ而俄ニ四方へ広マリ候ニ付、面々着し居候衣類之外ハ、都而焼失時分柄、表表物等取乱し置候砌之火災ゆへ翌朝より夫食等ニも指支、中ニも縁者等無之もの杯ハ及飢渴候趣も相聞、指当リ小屋懸ケ等も仕かね、寒氣之節可凌手段無之由ニ付、普請手当金并夫食御救禱拝借願、別紙之通申出候間、得与相糺候所、此度火災ニあい候もの共ハ、いつれへも至極之貧窮ニ而、変難無御座候而も取続兼、御救等ヲも可奉願程之懐合も御座候よしニ而、いつれニも致方なく、十方ニくれ罷在候趣何共歎敷次第奉存候間、何ニ卒御仁恵ヲ以、前書目論之通、近ク御救相濟候様仕度、於私偏ニ奉願候、以上

十二月

(七五七)

乍御報御書付致拜見候、御扱下本米崎村彦三郎等、拘リ一件及御懸合候所、御扱下分拘リ刑御目論之上、筋へ御伺可被成旨、被仰聞候趣致承知候、仍而致一覽候所、何等存寄も無御座候付、扱下拘リ刑相目論及御相談候条、思召も無御座候ハ、直ニ御役所より筋へ御指出可被下候、右御答旁如斯御座候、以上

十二月朔日

入江忠八郎

加藤孫三郎様

(七五八)

十二月五日仕出御用

一、本米崎村彦三郎刑目論伺、前留之通御奉行衆へ指出候事

- 一、外宿村飢人致病死候、為知前留之通吟味方へ指出候事
- 一、外宿村稗御藏御普請萱入札五枚、吟味方へ開札二指出候事
- 一、水木村御陣屋家上御普請勘定巻卷、御勘定所へ指出、尤見届御断、御奉行衆へ手形御断、御用人衆へ前留之通指出候事

- 一、北浜筋御成二付、所々御旅館御普請御入目勘定吟味方へ指出候事
- 一、伊師町村出火二付、為御知三通、別留之通、ヶ所々へ指出候事
- 一、右同断二付、金穀拝借之義前留之通御奉行衆へ指出候事
- 一、延宝七未郷帳・当御藏郷帳御勘定所へ好之節、指出候様請弘方へ廻置候事
- 一、寺社材木願八通、故障之有無<sup>非</sup>批是添、別留之通御奉行衆へ指出候事

(七五九)

以書付致啓達候、先達而北浜筋御成之節、於中戸川新田焼米俵二入、通御先へ指置候付、其砌御預二相成候処、其元様迄差遣候様此節御達二相成候間、御序次第御引取被成置様二と存候、此段得御意度、如斯二御座候、以上

十二月五日

島村孫衛門様

加藤孫三郎

(七六〇—一)

乍恐以書付奉願上候事

高式石六升四合

手繩村

内 壹石三斗余荒地

百姓

利兵衛

年八十